

令和8年度鹿児島県図書館大会 事例発表テーマと発表概要

		発表者	テーマ	概 要
事例発表Ⅰ (11:00～11:25)	①小学校A	鹿児島市立武小学校 教諭 原口 美和	感性を育み、地域とつながる読書活動	本校ではこれまで子どもたちの豊かな感性を育むため、読書活動を大切にしてきました。今年度新たに地域の方々による読み聞かせグループ「ぐりぐら会」を発足し、連携を深めながら行ってきた読書活動の取組を紹介します。
	③中学校	出水市立江内中学校 教諭 曾木 彩 学校司書 伊牟田 静香	人をつなぎ、学びが広がる学校図書館を目指して	全校朝読書や小学生への読み聞かせ交流活動、家庭で親子が本に親しむ家読（うちどく）を行っています。また、図書館は地域にも開放しています。キャッチフレーズである「誰もが楽しく学べる学校」の取組を紹介します。
	⑤読書団体（幼稚園）	学校法人伊敷町学園 認定こども園伊敷幼稚園 父母の会 会長 田中 由衣	本好きな子どもを育てる読書活動	園児が自ら本を選び、読むための読書活動はどうあればよいのか、という課題解決のための本園の取組、「楽しいワクワクする読書環境の整備」「保護者で組織された読み聞かせグループの活動」について紹介します。
	⑦公共図書館A	霧島市教育委員会 社会教育課 課長 福永 義二	書店を支える切り札？中高生の「推し本」発信	読書活動推進と地域書店との連携を同時に図るため、中高生の主体的な「推し本」発信に取り組みました。公共図書館がハブとなり、書店での選書企画やビブリオバトルをとおして「発信する読書」へと転換した実践事例を紹介します。
事例発表Ⅱ (11:35～12:00)	②小学校B	出水市立野田小学校 教諭 松下 弘樹	児童の読書意欲を引き出す手だて	出水市が目指す「読書活動日本一のまちづくり」を踏まえて、PTAや地域ボランティアグループ、中学校との連携した取組を行ってきました。学校・地域・家庭が一体となった読書活動推進の取組を紹介します。
	④高等学校	県立曾於高等学校 専門員 桑畑 恵子	つながりを生み出す学校図書館を目指して	デジタル化が進み、生徒たちの読書環境も大きく変わりました。貸出や利用状況にも影響する中、「生徒と図書館」、「生徒と本」をつなぐにはどうしたらよいか模索中です。学校や生徒の実態に合わせた取組と課題について発表します。
	⑥読書団体（読書グループ）	谷山北公民館 読書ボランティア 「こだま」 代表 中間 史	つながる心、広がる笑顔～公民館図書室から育む地域の絆～	平成20年10月に谷山北公民館が開館したことを機に、図書室サポーターの有志で結成した読書グループ「こだま」が、これまで取り組んできた活動の一端とその成果を紹介します。
	⑧公共図書館B	阿久根市立図書館 館長 川崎 徹志	図書館と福祉 地域の文化センターに出来ること	図書館と福祉をテーマに、地域の文化センターである図書館はどのような形で支援・協力し、よりよい福祉に貢献出来るのかを、地域包括支援センター・福祉施設・図書館の三者における取組事例を交えてご紹介します。